



# コミスクだより

新原小みどりっ子  
育成協議会

NO. 2

令和3年2月1日

コミュニティ・スクールが始まり1年が経ちました。11月19日(木)に第4回みどりっ子育成協議会を開催し、本年度の学校運営に関する4つの評価項目について振り返り、自己評価を行いました。その内容を報告いたします。

## <評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 熟議とまでは言えないが議論できた。
- 学校運営の基本方針について、先生方からより詳しい内容を聞くことができた。
- 会議の回数を増やしたり、時間を掛けたりするのが良いのかどうかは分からないが、限られた時間の中での熟議というのは難しい。
- 学校の目標、課題の説明を受ける、そして理解する程度の状況であった。熟議までは難しいが議論はできた。



## <評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 学校の行事が、新型コロナウイルス感染症感染予防の為、例年のやり方と大きく変わらざるを得ない事について熟議できた。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、例年と異なる対応を強いられる中、児童を優先に、より良い学校生活を送れるよう、また、保護者への配慮を考慮した内容を話すことができたと思う。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限され、地域の団体(自治会、地域住民)への協力要請ができなかったと思う。
- 主に、保護者の立場で考える事ができた。
- 熟議とまでは言えないが議論できた。今年度は協議会が設置された初年度であり、学校評議員制度からの移行期のように感じる。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、健康リスク管理が問われる中、学校行事のあり方などを協議した。

### <評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- コミュニティスクールの設置目的を明確化し、形骸化させないための方策が必要と感じる。  
例えば、
  - 1 みどりっ子育成協議会のあり方を考える
  - 2 保護者や地域へコミュニティスクール設置の目的を周知する
  - 3 地域への学校運営基本方針の見える化を図る
  - 4 地域との連携・協働の進め方を考える
  - 5 委員の研修を進める
- 来年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が多少はあると思うので、学校活動に対しサポート、提案できる場であれば良いと感じる。
- 保護者や地域の方がボランティア活動に応募したり参加したりしやすくなるような工夫をしたい。
- 来年度は3つの基本方針について話し合ったり、子供たちの様子も見たりしていきたい。
- 今年度は地域への協力要請ができなかったから、参加できる機会を作っていく事が必要だと思う。
- 保護者の立場からすると、みどりっ子育成協議会が何をしているのか不明なことが多い。  
そこで、外部への発信をし、地域や保護者の方に興味をもってもらえるような活動をしたい。
- 今年度は学校運営に寄与できる活動はできていないと感じた。地域ボランティアの継続的な発掘をしていきたい。

### <評価項目4> 協議会の取組や学校運営に資する活動について、教職員、児童、保護者、地域に周知することができたか。

- 地域への周知が十分でないので、今後コミスク便りの発行等を期待する。
- 保護者の中でも、学校運営や活動への関心度に差があると感じる。コミスク便りで認知度が上がると良いと思う。
- 学校行事については、学校便りにより地域に周知されていると感じる。協議会の取組やコミュニティスクール制度の意義・理念等も地域に浸透させていく必要があると思う。毎月開催される班長会に足を運んでもらう等の方法もある。ただし、教職員のオーバーワークとならない範囲で行うことが大切である。



学校・家庭・地域のみなさんが子供たちの  
応援団です。  
保護者の皆様、地域の皆様、新原小コミスク活動  
へのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。